

## R7 命の週間における学校の取組について（清瀬第七小学校）

主な取組	具体的な内容	学年、教科等との関連、外部との連携等	成果、課題、今後の取組等
校長先生の講話を聴く	「国境なき医師団」ノーベル平和賞の歴史や日本被団協の受賞を含めたスライドを基に、国境なき医師団の活動を紹介し、様々な境界を越えて、命を大切にしようとする心情を育てる。	・全学年 ・9月の講話 「ピースエンジェルズ」	国境なき医師団の活動を知ることによって、様々な境界を越えて、かけがえのない命を大切にしたいという思いを高めることができた。
1年 道徳	「おたんじょうびカード」自分の生命そのものかけがえのなさに気づき、命を大切にしようとする心情を育てる。	生活科	教材文を通して、「生きていってすてきな。」と感じるときについて考え話し合うことで、あたりまえに生活していることこそが生きている証であることに気付くことができた。これからも命を大切にしていこうという気持ちが高まった。
2年 道徳	「ぼく」自分自身が大切な存在であることに気付かせ、自他の生命を大切にしようとする心情を育てる。	生活科 「こんなに大きくなったよ」 保健指導 「おへそのひみつ」	道徳の時間で自分自身が大切な存在であることに気付くことができた。 生活科の学習でこれまでの自分の成長を振り返り、保健指導で赤ちゃんの頃からの成長過程を学ぶことで、大事に育てられた一つしかない自他の生命を大切にしようという意識が高まった。
3年 学級活動	ユニセフ動画より「戦闘から逃れたブルクワ君が家族と再会できるまで」世界の子供たちが置かれている厳しい状況を知り、命の大切さを考える。	道徳 「おじいちゃんおばあちゃん、見ていてね」  総合的な学習の時間 「未来地図をかこう」	世界の子供たちの厳しい生活状況を知ることによって、平和に生きることが当たり前ではないことに気付くことができた。自分も周りの人の命も大切にするためにどのように行動したいか活発に話し合う様子から、命に対する意識が高まったことがわかった。
4年 道徳	「バルバオの木」受け継がれる生命のたくましさやすばらしさを知り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。	理科	自分たちが生きていけているのは、他の生命をいただいているからであることに気付く、周りの生き物や食べ物を大切にしようとする気持ちを高めることができた。 また、生命は過去から受け継がれているもので、自分だけのものではないということが理解できた。
5年 道徳	「コースチャぼうやを救え」生命が支え合いの中で存在するかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重し大切にしようとする心情を育てる。	社会科（世界の中の日本）	児童一人一人が命を大切にするためにどんな行動をとるべきかを考えられた。全ての生き物にとって命は平等であり最も尊重されるべきことであるという意識が高まった。

6年 学級活動	3学期学級開き「命の週間」の意義 命の週間について考え、生命を尊重しようとする心情を育てる。3学期の目標を設定する中で、健康であることの大切さに目を向け、がん教育へと繋げる。	がん教育（1月末外部講師） 道徳 社会科	命の週間についての説明と、校長講話を聞いて話し合いを行った。先人から受け継がれてきたかけがえのない命を大切にすることを意識を高めた。 がん教育事前学習を通して、毎日健康に生活できることへの感謝の気持ちをもつことができた。今後のがん教育に繋げる。
けやき（低学年） 道徳  学級活動	「ハムスターの赤ちゃん」 教科書の内容を聞き、小さな命にどんな言葉をかけてあげるか、それぞれに考え発表した。  「いろいろなおと」 人間には色々な音があり、それは命がある証であることを改めて考える。	生活単元  生活単元	秋から学級で育てているカブトムシの幼虫に向けて、同じように言葉をかけてあげながら大きな入れ物に引っ越しをした。大切にしたい、大きくなってね、と声をかけた。 みんな大切な命があることを確かめることで、命の大切さを考えることができ、自分の命も友達の命も大切にしたいという意識が高まった。
けやき（中高学年） 道徳	「かけがえのない命」 命について話し合う。 「おじいちゃん、おばあちゃん、見ていてね」 「震災を経験して」 自分の身を守ることや命の大切について話し合う。	道徳 学級活動	東日本大震災の話を書くことで、命の大切さについて話し合うことができた。限りある命なので前向きに一生懸命生きていくことが大切だと気付くことができた。 地震から身を守る方法を確認したり、震災から復興した町や人々の話を聞いたりして、人間のたくましさや命の大切さを知った。